



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

立川市CKDネットワークの活動について

[当法人理事]

すみとも内分泌クリニック

住友 秀孝 [医師]

皆様、如何お過ごしでしょうか？日々の診療、本当にお疲れ様です。さて開院時より当院ホームページに「院長のぼやき」と称するブログを書いています。開院当初は、糖尿病・内分泌疾患について。途中から、バイクとスキーの話に変わり、最近は新型コロナウイルス感染症などの話を書いています。

以下は、本日書いたホームページ掲載原稿です。当方が立川市医師会からの世話人を務める、立川慢性腎臓病ネットワークについて書いています。ご一読頂ければ幸いです。本稿が掲載される本年7月には、世の中どうなっているのか想像もつきませんが、2年前と同様の世相には戻らないでしょう。マスクをしないでスキーができる日が待ち遠しい今日この頃です。

●遊びの話と仕事の話を交代で書いてゆきます・・(第69回)

皆様、お早う御座います。本日は、2021年4月25日(日)です。通常の診察と新型コロナウイルスワクチン接種の段取りなどで、ばたばたと1週間が過ぎてゆきました。先週の残務整理と原稿書きのため、朝からクリニックにいます。さて、「第4回立川慢性腎臓病ネットワーク 病診連携研究会」が、4月20日(火)WEB上にて開催されました。今回の当番世話人は、立川病院腎臓内科・透析センター長 二木 功治先生です。まず、二木先生より「立川慢性腎臓病ネットワークの現状報告と今後の展望」について御報告頂きました。立川市には慢性腎不全に至り維持透析治療が必要となる可能性をもった慢性腎臓病の方が、計算上は23,000名も存在している状況です。診療所と3つの病院(立川相互病院・立川病院・災害医療センター)の腎臓専門医との腎臓病医療連携が益々重要になります。立川市・立川市医師会・立川市歯科医師会・立川市薬剤師会との協同事業として、2021年1月には記者会見を実施し、立川市民の皆さんの腎臓機能を守る啓蒙活動が開始されました。立川市のマスコットキャラクター「くるりん」をいれた、現在の腎臓機能を示すシールを、かかりつけ薬局でお薬手帳に貼ってゆく事業も始動しています。特別講演には、東京都済生会中央病院 副院長・腎臓内科部長 竜崎 崇和先生に、「激変した糖尿病腎臓病(DKD)の治療戦略とみなど慢性腎臓病医療連携～腎性貧血治療を含め～」を御講演頂きました。SGLT2阻害薬を含む糖尿病治療薬とDKDの治療の関連について最新の知見をご教示頂きました。次に、東京都港区の7病院(腎臓病専門医在勤)と港区医師会との腎臓病医療連携について概説頂きました。同医師会に所属する開業医と腎臓病専門医の壁を低くする診察依頼用紙を提示頂きました。立川市においてもいずれ作成されるものと思われれます。最後に、日本全体では、糖尿病腎臓病由来の慢性腎臓病・慢性腎不全のため1年間におよそ15,000名の患者さんが血液透析治療を開始しています。立川市内においても、お一人でも維持透析治療を必要とする患者さんを減らすため取り組みです。当方もしっかり裏方世話人を努めます。

本日より、3回目の「緊急事態宣言」が発出されました。しかし立川駅コンコースには人が沢山でています。さてどうなるか。新型コロナウイルス感染症の収束は見えてきません。皆様、どうぞ御安全に。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間において50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 65歳、男性。安静時心拍数75回/分。運動強度を最大酸素摂取量の50%に設定した場合に、Karvonen法を用いたこの患者の目標心拍数として正しいのはどれか、1つ選べ。

(答えは3ページにあります)

1. 105 4. 120
2. 110 5. 125
3. 115





第64回日本糖尿病学会年次学術集会

令和3年5月20日(木)～22日(土)

Web開催

[当法人会員]

杏林大学医学部付属病院

田中 利明 [医師]

コロナ禍の2年目、第64回日本糖尿病学会年次学術集会は6月に富山県で開催される予定でしたが、昨年同様に完全Web開催で行われました。最近では研究会をはじめ学会もWebで行われるので、移動しなくても職場からすぐ参加でき、教育講演や一般演題などはオンデマンドで後からや、繰り返し視聴することができて勉強しやすくなりました。反面、学会がなければ行く機会のない場所を尋ねる事ができなくなったことや、会場で先輩や後輩、お世話になっている先生方に直接ご挨拶などができないことは残念です。

学会内容としましては、特に今年は「インスリン発見から100年記念」とのことで、学会でも多くの記念講演等のイベントが行われました。インスリンは1921年フレデリック・バンティングとチャールズ・ベストにより発見されました。1921年は大正10年ですから、100年経ちますが「すごく大昔」という感じはしません(若い方は大昔かも知れませんが)。また1923年にバンティングは32歳の最年少でノーベル生理学・医学賞を受賞しましたが、同賞の最年少記録は未だ破られておりません。インスリンの発見からその後についても、多くの駆け引きや美談があり、たくさん本になっております。学会の講演でも著明な先生方の苦労話などが聞かれ、今日私達が糖尿病の指導や治療ができるのも、先人達の努力や苦労があるお陰であるだけでなく、今も糖尿病を克服するためにそれぞれの立場から進歩し続けていることを改めて感じました。

発表に関しては、COVID-19の発表が多くありました。それぞれの立場からの発表で、コロナ禍の自宅に自粛生活で血糖コントロールが悪くなった人や、外食が減ってむしろ良くなった人などは、自分の臨床経験と照らしても納得いくお話でした。またCOVID-19と血糖管理の関係、患者さんの意識調査など新型コロナウイルスによる影響を多面的に捉えた発表も多く、データ収集の重要性を感じました。

当教室からも5名が発表いたしました。臨床発表では「血糖降下剤による腸内細菌叢の変化」、「1型糖尿病合併妊娠におけるインスリン必要量の検討」、「SGLT2阻害薬の使用経験」を、基礎研究発表では「Nrf2のインスリン転写への影響」、「MCP-1とVGEF120分泌に対するアシル化グレリンの影響」の発表です。当院薬剤部 小林 庸子先生はシンポジウムで「薬物療法からみた個別化の在り方と課題」を発表され、アドヒアランスについて学びました。

視聴した講演や発表では、従来の超速効型インスリンより速く効く「超超速効型」インスリンの使用症例や、FGM (FreeStyleリブレ)での血糖トレンド情報ファイル(AGP)だけでなく、TIRやTBRなどの評価や活用その限界など、改めて勉強になりました。またそれらを生かしたインスリンや薬物選択や、栄養指導などへの活用だけでなく、患者自身がカーボカウントを含めて活用できるようチームで支援することの重要性を感じました。また、新しい作用機序の薬、イメグリミンやGIP/GLP-1作動薬の発表より効果を感じ、膵臓・膵島移植や、ヒトES細胞を用いた再生医療の現状などを学び、ヒト膵島研究の重要性と日本での利用制限などハードルの高さを感じました。他には近年聞かれるようになったアドボカシー活動とスティグマの話題もありました。特に「生活習慣病」という言葉自体をなくすべきではというのが印象的でした。

内分泌学会ではバーチャル懇親会やご当地プレゼント企画があつて楽しめたので、糖尿病学会もそういった「息抜きの企画」があればと思います。

6月14日もしくは21日までオンデマンドで視聴できるので、時間がある限り知識のアップデートや新しい知見を得たいと思います。来年はワクチン接種も進み、COVID-19の感染も落ち着き、Webやオンデマンドを残しつつ対面も再開したハイブリッド形式の学会であつてほしいと思います。

第64回日本糖尿病学会年次学術集会在富山大学医学部 戸邊一之先生の大会会長で行われました。2021年5月20日から22日(オンデマンド配信5月20日～6月21日)まで現地開催から新型コロナウイルス感染拡大に伴い完全Web開催となりました。報告者は参加並びに一般演題口演で発表しましたのでご報告いたします。

在宅マニュアルを作成開始して3回(年)目の学会となりますが、完成した冊子版在宅マニュアル「糖尿病在宅患者の療養・介護支援ガイド～糖尿病をもつ人が在宅・地域で健やかに暮らすために～」について発表しました。今回の学会は完全Web開催のため事前にパワーポイントで音声入力をしたデータ(MP4ファイル)を作成し、学会事務局に提出していました。パワーポイントに音声を入れて動画にすることは他の学会で昨年経験済でしたが、顔の見えないパソコンの画面相手にしゃべりかけて、保存後に自分の声を聴くといった感じでした。自分の声は元々大嫌いでしたが更に嫌いになりました。

当日動画の視聴をした後、時間の許す範囲(同セッション内で演題取り消しが2演題あった)で質疑応答がありました。Q:ガイドを作成するところで一番苦労したことはなどの質問を頂きました。A:膨大な情報の整理が一番大変だったことだと話しました。Q:執筆して頂いた先生方はどのように集めたのか?A:臨床糖尿病支援ネットワークという団体が企画したためその団体に所属している先生方と介護系は知り合いを当たって人を集めて作成しました。この在宅マニュアルが会員の先生方にも、全国の医療と介護を行う人たちに当ガイドを利用して頂きたいと発表しました。



シンポジウム1「地域全体における糖尿病力をあげる」から、座長をされている辻野先生、演者の西村先生、熊倉先生です

[当法人評議員]

大和調剤センター

森 貴幸 [薬剤師]

この糖尿病学会年次学術集会是会場がないため移動はクリックで済むところで多くの講演やシンポジウム、ポスターの閲覧ができました。そしてオンデマンドで見れなかった発表なども見ることができます。人と会えない学会にも慣れてきたところですがやはり人と接することの大切さが改めて感じさせられました。良い面と解決してほしい面と併せ持った年次学術集会でした。マスク越しでも良いので来年こそは対面式の糖尿病学会年次学術集会になる事を切に願いを込めて報告書といたします。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

Karvonen法による運動強度の算出方法は、 $\{(220 - \text{年齢}) - (\text{安静時心拍数})\} \times \text{運動強度}(\%) + \text{安静時心拍数}$ で求めます。糖尿病運動療法では最大運動予備能の40～60%程度(AT程度)で、軽く息が弾むくらいの中程度運動(有酸素運動)を勧めます。その他運動強度の指標としては、自覚的運動強度(ボルグ指数: RPE)やメッツ(METS)も用いられています。



報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第68回例会

日時: 令和3年3月15日(月)
オンライン

[当法人理事] 東京医科大学八王子医療センター 松下 隆哉 [医師]

2021年3月15日第68回例会が「ウイズコロナにおける糖尿病患者のメンタルケア～新たな時代の医のアートを考えよう～」というテーマで開催された。ウイズコロナにおける糖尿病患者のメンタルケアというタイトルは、まだ新型コロナウイルス感染症が始まって一年程度では難しいテーマだったが、その中で西條クリニックの西條 朋行院長から、コロナ禍の不安や抑うつ～慢性疾患患者への影響」との基調講演をいただいた。パネルディスカッションは4名の先生からお話しいただいた。朝比奈クリニック 朝比奈 崇介先生から大きな心理的なストレスを受けているコロナ対応の看護師についてお話しいただき、北里大学北里研究所病院 井上 岳先生からはご自身の病院での糖尿病患者の推移やケアでの問題点についてお話しいただいた。女子栄養大学栄養科学研究所 高橋 大悟先生からは、コロナ禍での慢性疾患の中断やコントロール不良が懸念され、精神疾患の増加もあり、相談・支援そして連携できる体制作りが必要であること、がん検診が減っていることより発見が遅れる危惧をお話しいただいた。武蔵野赤十字訪問看護ステーションの豊島 麻美先生から生活環境の変化により心身の不調を呈した高齢者の症例をご提示いただき、看護師の立場から心理的な支援を行いながら糖尿病の療養を支えた症例をご提示いただいた。

今回は、新型コロナウイルス感染症が始まって一年程度だが、西條先生のご講演にあったように、コロナ禍でメンタルヘルスは悪化して、うつ病や不安障害が誘発・増悪している現実があるのに、まだ一般には焦点が当てられていない。現在、新型コロナウイルス対策や糖尿病診療自体に主眼が置かれていることが多いが、特に女性や若年者へのメンタルヘルスの対応や専門科との連携も模索していく必要があることなど、アフターコロナ禍での糖尿病診療への課題も見え、実り多い例会となった。

報告

第25回南多摩糖尿病教育研究会

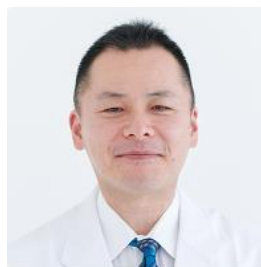
日時: 令和3年4月6日(火)
オンライン

[当法人理事] 南多摩糖尿病教育研究会代表 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美 [医師]

4月6日(火)、第25回となる本会は「基礎からわかる『糖尿病と妊娠』」をテーマにオンラインにて開催し、127回線のアクセスがありました。特別講演は杏林大学医学部 産科婦人科 教授 総合周産期母子医療センター センター長 谷垣 伸治先生より『妊婦は血糖大変？(妊婦は結構大変？)』と題しご講演いただきました。

内容は最新の統計データから始まり、各種ガイドライン、費用負担、妊婦のリスクと管理、血糖コントロールの方法等、妊娠時の血糖コントロールにかかわること全てを「参加型」で非常に分かりやすくお話しいただき、参加された方のアンケートでは「計画妊娠の大切さを知りました。」「早期介入の大切さを知りました。」「妊娠時の血糖管理の必要性を改めて確認できました。」「参加型で楽しく学ぶことができました。」等、多くのコメントをいただきました。パネルディスカッションでは、金重 勝博先生(内科医師)、森 貴幸先生(薬剤師)、下田 ゆかり先生(看護師)にご登場いただき、『妊娠にまつわる血糖コントロール～各職種間の連携と個々にできること～』というテーマで座長の宮城 調司先生を中心に討議いただきました。パネラーの先生方には様々な視点から現状と施設での取り組みについて共有いただき、チーム医療の大切さを再確認いたしました。

次回は「鬱(うつ)と糖尿病」をテーマとして、開催を予定しております。興味のある方は是非ご参加をお待ち申し上げます！



谷垣 伸治 先生



研究会等のセミナー・イベント情報

主催事業
 共催・後援事業
 その他

2021年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

- | | |
|-----------------|----------------|
| 第17回 西東京教育看護研修会 | 第5回 西東京臨床検査研修会 |
| 第17回 西東京病態栄養研修会 | 第5回 西東京運動療法研修会 |
| 第17回 西東京薬剤研修会 | |

開催日：2021年7月11日(日) 9:40~16:35

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の「2021年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。(7/5締切)

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位
- ☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中

オンライン

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第70回例会

申込必要

テーマ：『糖尿病在宅支援の新しいかたち～糖尿病在宅患者の療養・介護支援ガイドの活用法～』

開催日：2021年9月13日(月) 19:20~21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください(9/8締切)

- ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位
- ☆日糖協療養指導医取得のための講習会

参加費無料

オンライン

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付しております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

お悩み解決

《マイページ Q&A》

Q.オンラインセミナー(※)を受講する際に必要な受講番号は、どこで確認できますか？

A.マイページ「お申し込み中の本法人セミナー」よりご確認いただけます。その他に、ミーティングID、パスコードも掲載しています。



※本法人主催(本ホームページから申し込みをした)セミナーが、マイページに掲載されます



オンラインセミナーを受講の際に必要な情報は、こちらからご確認いただけます。

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



最近話題に多く上るスティグマ、私は…？と振り返りました。両下肢切断後数ヶ月ぶりの外来受診のAさん。開口一番「インスリンが減って、こんな少しじゃ効かないから打つてない♪」予想外の言葉に啞然…私はつらい思いをした切断後なら当然注射を続けていると無意識に考えていたようです。自分の思いや言動が他者へ与える影響を忘れずに！と改めて思いました。(広報委員 久保 麻衣子)



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network